

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはっと実態調査

(平成25年4月～平成26年3月)



一般社団法人東北測量設計協会では平成7年度に事故防止委員会を設置し、労働災害の防止を目的として活動을続けて参りました。その活動の一環として東北各県測協会員の皆様のご協力をいただき、「労働災害アンケート調査」を実施し、そのアンケート調査結果の分析を基に過去4回の「労働災害事故事例集」を発売してまいりました。

年々進歩する技術革新に伴い現場作業の変化やリスクの多様化に、実際に発生した事例を通して各位に周知することにより労働災害の減少に努めるため、今回の調査より年度毎に会員の皆様からアンケートをお願いする事になりました。

今回の調査は皆様のご協力の下回収率は約95%の高回収率でした。会員の皆様の労働災害防止意識の高さと、会員相互の意識の共有化に対して前向きにお考えいただいたことに対して深く感謝申し上げます。

今回調査でも死亡事故の発生は無く、引き続き重大事故発生への安全管理は徹底されていると思われまふ。

書式は前回と同様の書式で、おおまかな傾向を取りまとめました。

危機回避のための資料として協会員はもとより、我々の業界から労働災害を出さないためにも多くの皆様と情報共有を図って行くことが重要と考えまふ。

今回は26年9月までの調査といたしましたが、年度の関係で大変申し訳ございませんが26年3月までの取り纏めとして報告をさせていただく事といたします。但し、事例については最新の情報を早期に共有する意味で、集計対象以外の事例も掲載させて頂いております。

来年度から年度の区切りで4月～3月の1年間のご報告をお願いいたします。

日々のKY活動や作業終了後にヒヤリハット報告書を取りまとめることにより、日々の安全活動に役立てながら情報の蓄積を図るツールとしてもご活用いただけます。

今回のアンケート調査にご協力を賜りました会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計に協力いただいた委員の皆様はじめ事務局、他委員会の皆様に併せてお礼を申し上げます。

平成27年5月11日

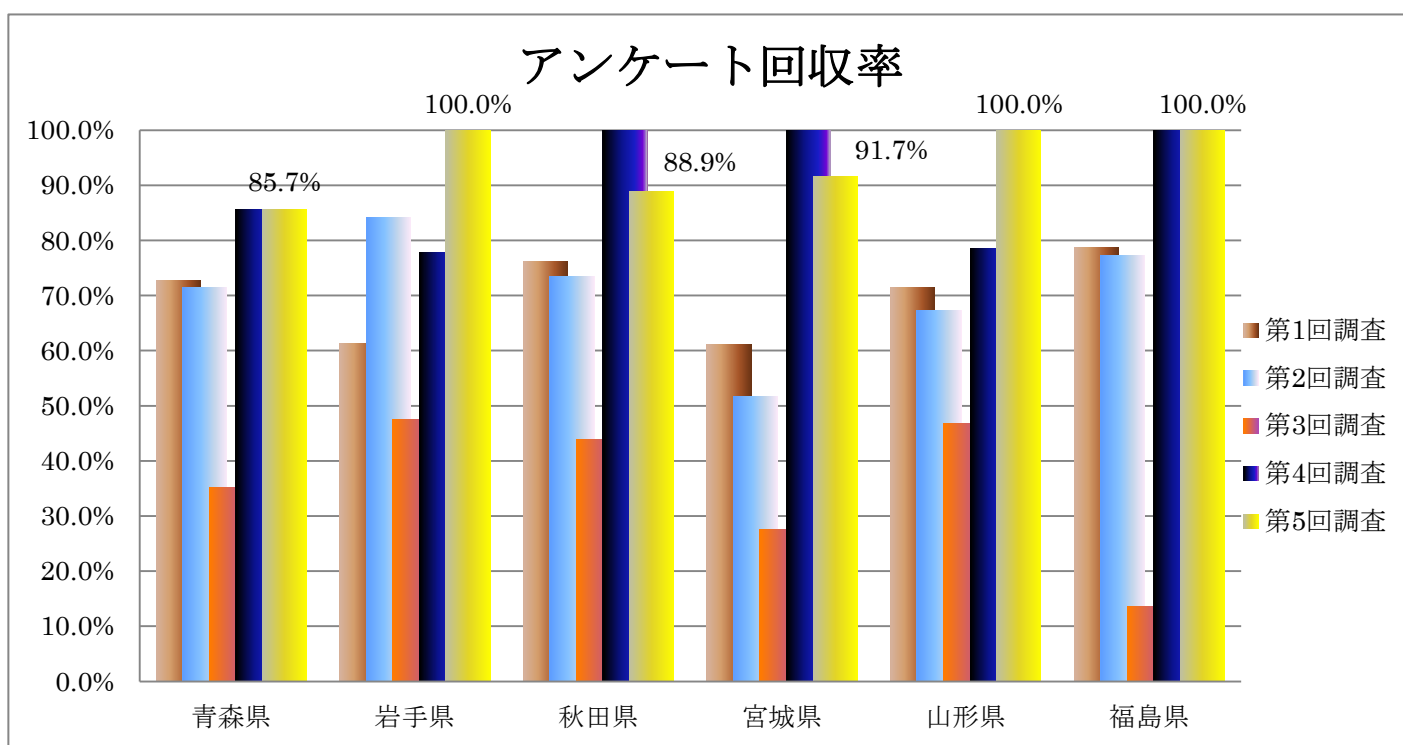
一般社団法人東北測量設計協会

技術委員会委員長 菊池 透

1. アンケート回収率

	第5回調査			第4回調査			第3回調査			第2回調査			第1回調査		
	H25. 4～H26. 3			H22. 4～H25. 3			H12. 4～H22. 4			H8. 4～H12. 3			S50. 7～H8. 3		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	7	6	85.7%	7	6	85.7%	54	19	35.2%	63	45	71.4%	55	40	72.7%
岩手県	9	9	100.0%	9	7	77.8%	40	19	47.5%	63	53	84.1%	80	49	61.3%
秋田県	9	8	88.9%	9	9	100.0%	41	18	43.9%	64	47	73.4%	59	45	76.3%
宮城県	12	11	91.7%	12	12	100.0%	47	13	27.7%	91	47	51.6%	90	55	61.1%
山形県	13	13	100.0%	14	11	78.6%	47	22	46.8%	61	41	67.2%	56	40	71.4%
福島県	9	9	100.0%	9	9	100.0%	66	9	13.6%	79	61	77.2%	80	63	78.8%
計	59	56	94.9%	60	54	90.0%	295	100	33.9%	421	294	69.8%	420	292	69.5%

※第1回～第3回の調査では東北各県測協の協力をいただいたため会員数が多い。



今回と前回の調査では会員を対象とし、更に過去の調査より短い期間の調査でありました。
直近2回のアンケートの回収率は90%を超える高い回収率が得られました。

安全意識の高まりの表れと思われる反面、調査期間が比較的短かったため、記録が多く残っていたということが考えられます。また直近は会員のみの対象としたため事業協力を積極的だったことが窺えます。
日々のデータ蓄積が大切であります。今後とも積極的なご協力をお願いいたします。

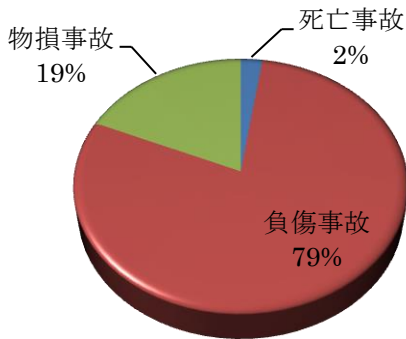
※ 本報告書の事例は、固有名詞（氏名、場所等）を表記せず代替名詞で対応しております。

2. 労働災害の発生件数

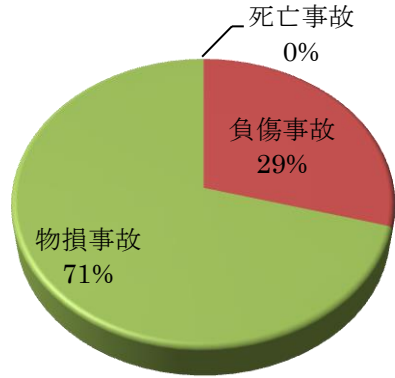
※前回は昭和 50 年～平成 25 年 3 月まで、今回は平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月まで

		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	39	46	20	47	20	30	202
	物損事故	6	2	3	36	0	0	47
	ヒヤリハット	15	18	9	4	17	223	286
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	4	4	0	2	0	2	12
	物損事故	0	2	1	25	1	0	29
	ヒヤリハット	2	4	4	14	3	7	34

労働災害の発生割合 (S50.～H25.3)



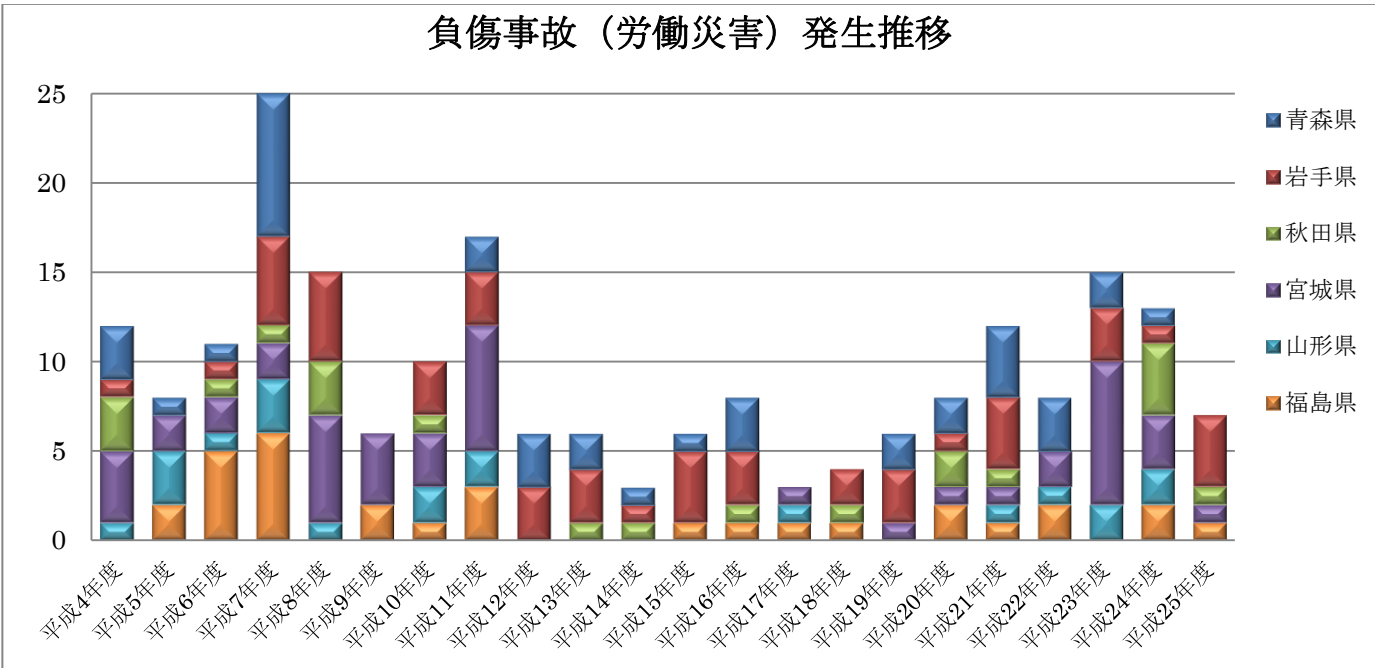
労働災害の発生割合 (H25.4～H26.3)



前回より物損事故も加えたため割合が合わない状況にあります。幸い今回の調査では死亡事故は無かったものの、負傷事故（労働災害）は前回まで202件／38年（5.5件／年）に比べ、今回は12件／年と増加しています。また、物損事故の報告も過年度に比較し多く発生しています。何れも震災関連業務により業務量の増大に伴い事故の発生割合が高くなっているものと考えられます。

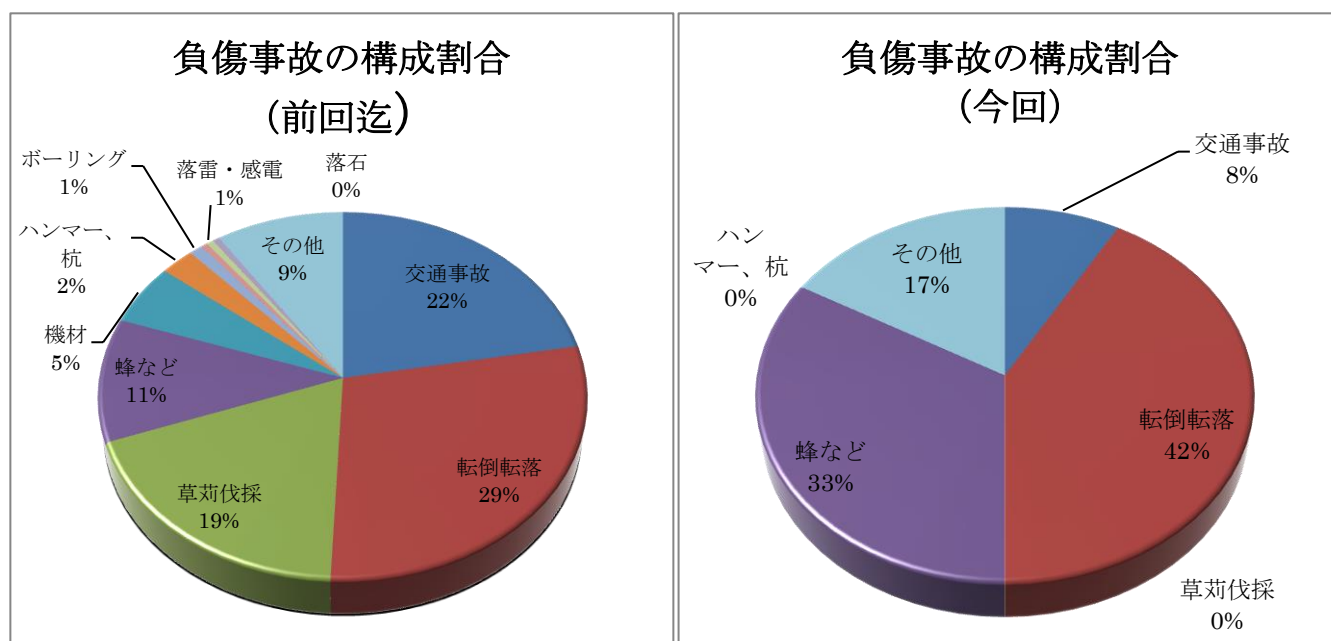
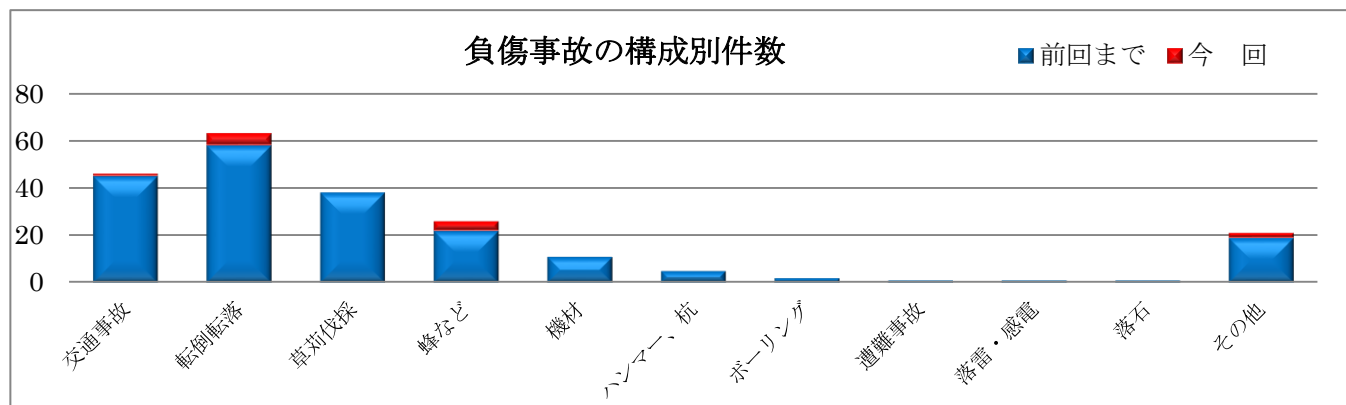
3. 負傷事故（労働災害）発生推移

負傷事故（労働災害）発生推移



平成 12 年度から平成 19 年度にかけて負傷事故は低調に推移していましたが、平成 20 年度あたりから増加傾向に転じています。平成 7 年、平成 11 年あたりは業務量も多く負傷の発生が多かったものと思われ、平成 23 年の震災以降業務量の増加に伴い、負傷事故も増加傾向にありますが、平成 25 年度は前年度の約半分に減りました。発注者の呼びかけなどによる安全意識の高まりと思われます。

4. 負傷事故の構成



※ 前は昭和 50 年～平成 25 年 3 月まで、今回は平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月まで

前回までの調査では交通事故と転倒転落事故が同割合で全体の半数を占めていましたが、今回の調査では転落・転倒の負傷事故が 42%と極端に増加していることが分かります。東日本大震災等で現場の状況も悪いことも考えられますが、我々業界の高年齢化も一因として挙げられるのではないかと考えられます。

長引く予算削減に伴い新卒者の採用も手控えられ、退職者も増加し高齢化が進んでおり、身体的能力の衰えに比例して転倒等の事故の増加につながっていることも考えられます。高齢者の現場作業には細心の注意を図り余裕を持った現場工程の検討が必要と思われます。

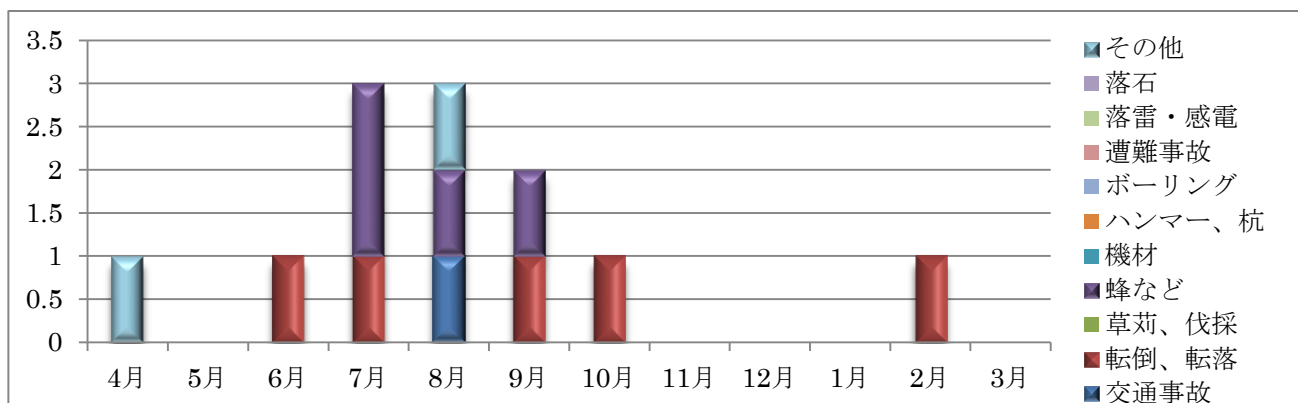
また、草刈や伐採での負傷事故の報告はなかったものの、蜂などによる負傷が増加しております。気象状況や現場状況によるものとも考えられますが、蜂などに対する抜本的な対策を検討する必要があります。

例) 蜂は黒いものに過剰に反応するため、黒っぽい服は着ない。
ポイズンリムーバー等により刺された後の毒の吸引等の対策を講じる。

5. 負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	事故種別	災害内容	事故原因	発生概要
岩手県	2013/6/28	労働災害	現場作業	転倒・転落	1. 発生場所：今回調査の隣接地 2. 被災時の作業概要：建物調査において屋根の仕上げ等の確認中 3. 災害発生原因：屋根の仕上げ確認のため岩手県所有の隣接地に入り確認を行った。戻る際に屋根上部を見ながら進んだためコンクリート構造物に落下した。構造物周りについては草刈りを行っていたが、上部には草が覆いかぶさっており確認できなかった。行きの際も気付かなかった。
宮城県	2013/7/3	労働災害	通勤時	転倒・転落	自転車で帰宅途中、歩道と車道の段差にハンドルを取られ転倒
岩手県	2013/10/30	労働災害	現場作業	転倒・転落	横断測量の移動中に地震の影響でできた深さ2.5mの空洞があったが、笹が生い茂っていたため気がつかず転落した。
岩手県	2014/2/18	労働災害	営業活動	転倒・転落	1. 発生場所：現場事務所外階段8段目付近 2. 作業概要：2階での打合せ後、階下へ移動中 3. 災害発生原因：14日の大雪により堆積した雪が解け、再度氷結していたため、滑りやすい状態だった。
岩手県	2013/7/10	労働災害	現場作業	蜂など	中学校建設予定地の山林内において、中心線選点作業における視通確保のための伐採作業中に、左耳の中心部に蜂に刺され受傷。30分後全身にじんましん発疹。
福島県	2013/7/23	労働災害	現場作業	蜂など	草刈作業中、蜂に首筋と左まぶたの2ヶ所を刺された。
青森県	2014/8/20	労働災害	現場作業	蜂など	伐採作業中に左手薬指に蜂が止まって刺された
青森県	2014/9/30	労働災害	現場作業	蜂など	堤体である地面に蜂の巣があるのに気付かず、草刈を始め蜂に刺されて負傷。
福島県	2014/8/25	労働災害	その他	交通事故	作業現場からの帰社途中、対向車が急に右折進入してきたため正面衝突を回避しようとしたため、歩道に乗り上げてガードパイプに衝突した。（車両同士の衝突は回避できた。）
宮城県	2014/4/17	労働災害	現場作業	その他	グレーチングと柵の間に土が詰まっていたため、力を入れて持ち上げそのまま下したところ、指をかけていたところが柵に挟まれた。
青森県	2014/8/11	労働災害	現場作業	その他	スコップを使う勢いで道路照明の角の部分にぶつけて負傷。

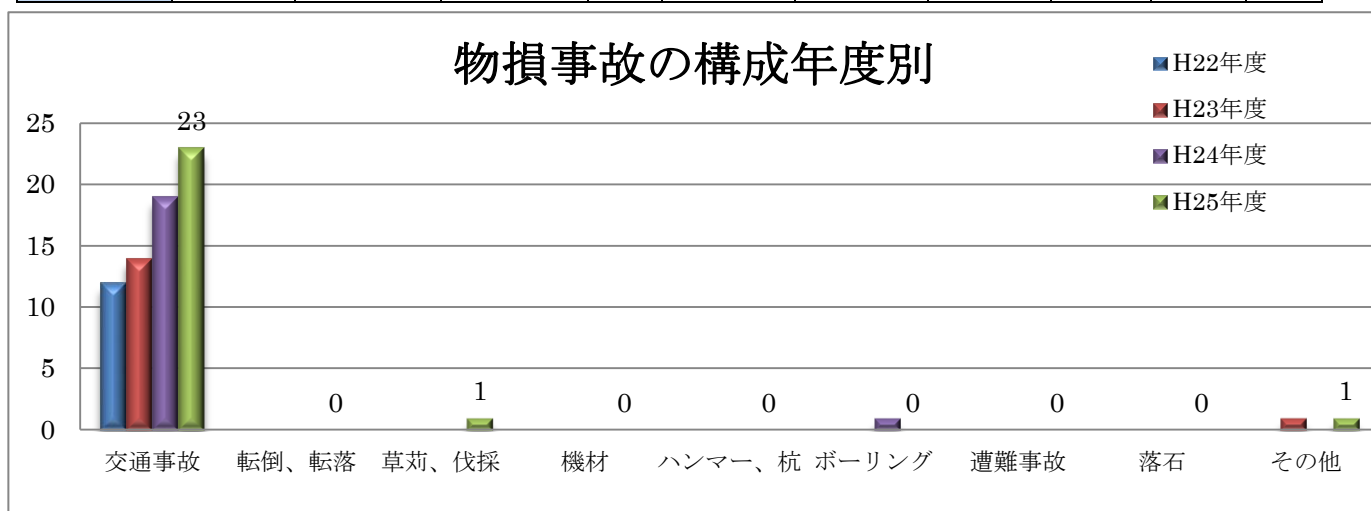
6. 負傷事故起因別・月別発生状況



現場業務が本格的に動き出す7月～9月の負傷事故発生がやや多くなっています。この時期は蜂などが活発になる時期なので特に注意が必要となります。また、全体を通して転倒・転落事故は時期に関係なく発生しますが、冬期の凍結路面での転倒には注意が必要です。

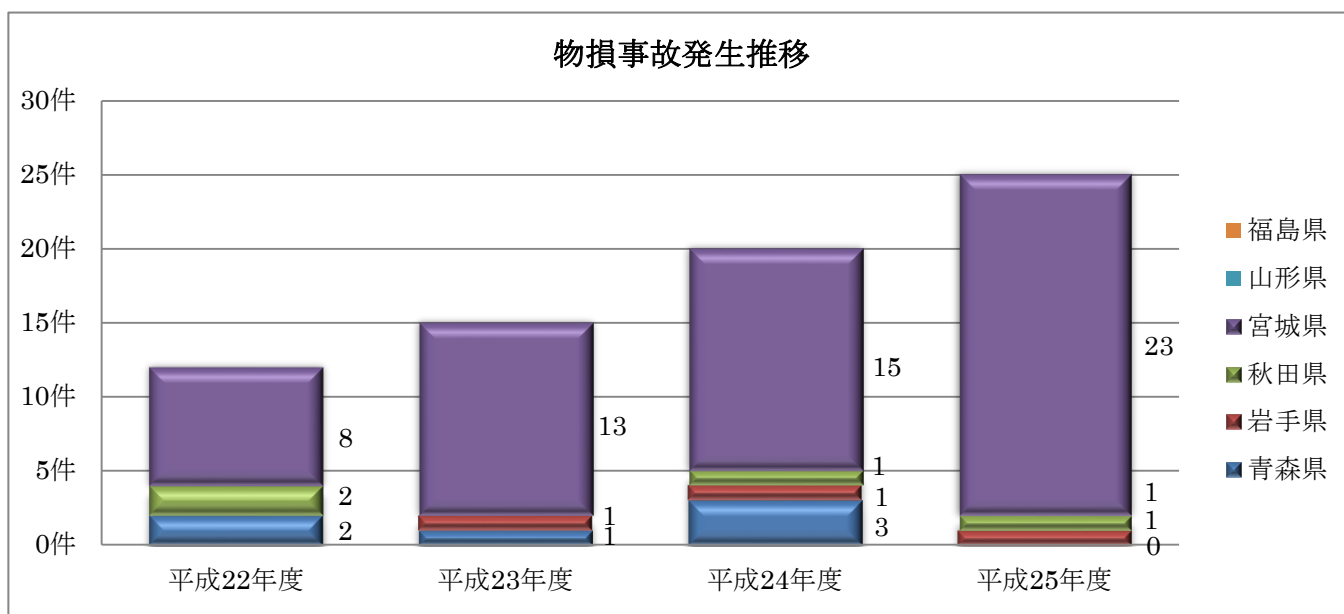
7. 物損事故構成年度別

	交通事故	転倒、転落	草刈、伐採	機材	ハンマー杭	ボーリング	遭難事故	落石	その他	計
H22年度	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12
H23年度	14	0	0	0	0	0	0	0	1	15
H24年度	19	0	0	0	0	1	0	0	0	20
H25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	1	25



物損事故の大半は、交通事故であり年々増加の傾向である。現場作業は勿論の事、打ち合わせ時や通勤途中の交通事故が報告されています。業務量の増大により、過労や居眠り注意散漫による不注意等、普段の健康管理にも注意を払う必要があります。

8. 物損事故発生推移



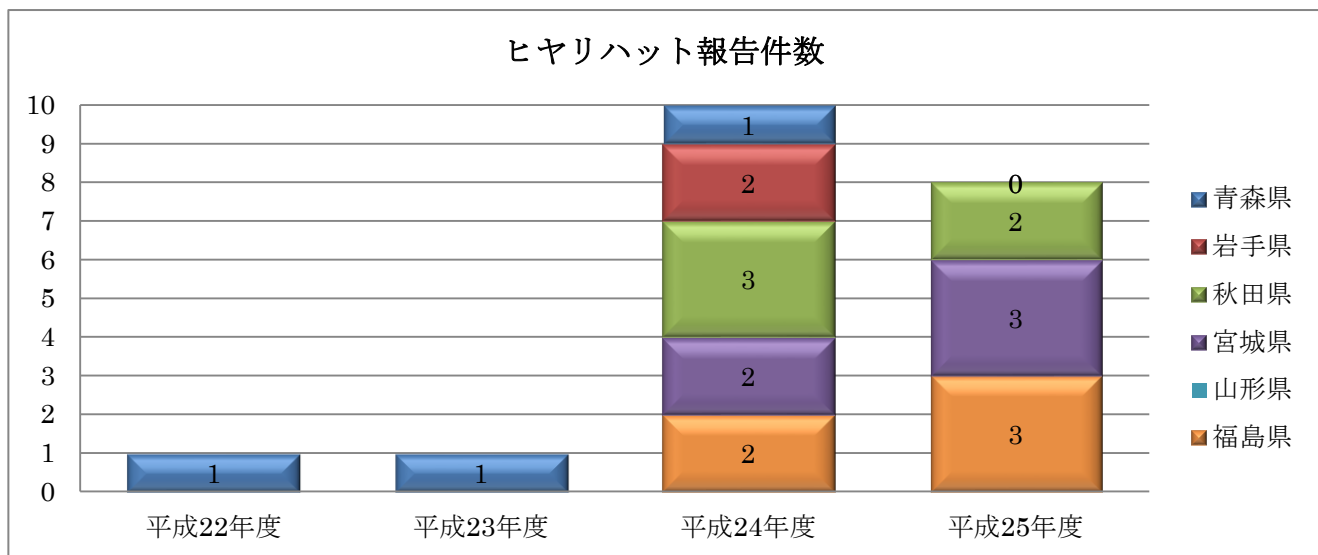
物損事故も年々増加傾向にあります。業務量の増加とともに発生率も増加傾向にあり、前項でも記したようにその大半は交通事故が占めています。

9. 物損事故事例

所在	発生日	事故種別	災害内容	事故原因	発生概要
宮城県	2013/5/28	物損事故	その他	交通事故	居眠り運転で走行車線から中央帯に落ち、脱出するために急ハンドルを切ったため、ガードレールに接触
秋田県	2013/6/5	物損事故	通勤時	交通事故	信号待ちをして停車している際、踏んでいたブレーキを緩めてしまい、前方車両にゆっくりと追突してしまった。前方の車両運転手及び同乗者に怪我はなかった。
山形県	2014/6/29	物損事故	現場作業	交通事故	交差点（信号なし、付加車線なし）国道優先で、県道を走行し交差点で（自車）一時停止した。国道から県道への右折車2台が停止し道を譲られた。右側確認後国道を横断中に左側直進車と接触した。
宮城県	2014/8/11	物損事故	その他	交通事故	休憩のためコンビニへ立寄り、退出する際に後方の歩道街路樹に接触
宮城県	2013/10/30	物損事故	現場作業	草刈・伐採	横断方向上の下草刈りをしていた際、官民境界線上付近に植えられていたシュガーブルーに気づかず、伐採してしまった。
宮城県	2014/4/24	物損事故	現場作業	ボーリング	管理資料より地下埋設物が無いことを確認し、機械ボーリングを実施していたが、調査孔より水がわき出てきた。
岩手県	2014/1/21	物損事故	現場作業	その他	境界杭設置掘削時に暖をとるため、20リットル缶に薪を入れて燃やしていたところ火が芝に燃え移った。約300㎡延焼した。
宮城県	2014/4/25	物損事故	現場作業	その他	同年2月に境界杭設置測量を実施した際、境界上に埋設されていたパイプラインを破損してしまった。
岩手県	2014/5/8	物損事故	現場作業	その他	観測を終え、次点に移動するために、トータルステーションを三脚に取り付けたまま持ち上げ、担ごうとした際、整準器から本体が外れ地面に落下しトータルステーションのディスプレイが破損した。

10. ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
前回まで	12	16	6	2	17	223	276
平成22年度	1	0	0	0	0	0	1
平成23年度	1	0	0	0	0	0	1
平成24年度	1	2	3	2	0	2	10
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
県別合計	3	2	5	5	0	5	20



ヒヤリハットの報告件数を表示したものでありますが、平成 22 年と平成 23 年は 1 件、平成 24 年には 10 件本年度は 8 件の報告がありました。ヒヤリハットの記録を採っている企業が少ないせいもあり、記憶に残る直近のデータが多いと推測されます。出来れば日々記録を採り、社内で水平展開を図ることも安全管理にとって効果が得られるものと思われます。ヒヤリハットは労災の認定を受けるまでもない軽微なけがや物損も含まれており、一歩間違えば大きな事故の要因となります。

ヒヤリハットの報告書を活用していただき、社内では勿論のこと業界でも共有化を図り労働災害を未然に防ぐためにも、是非とも報告をしていただくようお願いいたします。巻末に様式を添付いたしました。

1 1. ヒヤリハット報告事例

以上のような報告があり、各社で対策を講じたものと思われます。

やはり、前項の負傷事故の報告のとおり転倒転落に関わるヒヤリハットが多く報告されております。

所在	発生日	事故種別	発生概要
秋田県	2014/9/25	蜂など	<u>復元測量における伐採作業中にスズメ蜂の巣に気付かず蜂の巣を刺激、蜂の襲撃を受けた。排水路付近において、背丈ほどある葦の伐採作業中、コンクリート橋床版下面に作られた蜂の巣を刺激。</u> ●発生後の対応 ①携帯していた殺虫剤を噴射し、一時その場から立ち去る。 ②作業区域において、危険箇所がないか再度点検を行い後続の作業準備を整えた。 ●反省点 現地調査時、危険箇所の確認が甘かったことや、事前の情報収集が不足していた。 ●再発防止策 ①作業計画を立てる段階で、現地調査を細部に渡り実施し、現場作業における危険箇所の有無について詳細に調査する。 ②作業従事者の服装や装備の点検、作業開始前の危険箇所点検及びミーティングを徹底させた。 また、安全管理について再教育を行った。

所在	発生日	事故種別	発生概要
宮城県	2013/9/11	蜂など	<u>境界、杭の設置において、草刈り機を用いて伐採を行っていたら、スズメバチが襲ってきたが、作業従事者全員がすぐに逃げたため大事に至らなかった。</u> ●発生後の対応 ①伐採をする前に、現地の状況を確認する。 ②スズメバチ退治スプレーを作業員一人ひとり携帯する。 ●反省点 蜂の活動が活発になってくる時期のため、長そで長ズボンは当たり前にヘルメットや防蜂網を着用していたが、草刈り機を使用していたため、蜂の警戒音が聞こえなかったもので、事前に作業状況を確認してから作業を実施する。 ●再発防止策 ①作業前に現状を確認する。 ②社内で今回の出来事を伝達する。
青森県	2014/10/31	蜂など	<u>擁壁等道路構造物について目視点検中、壁面に繁茂していた「つる草」等の除去の際、スズメバチの飛来に気づき、作業員に擁壁から離れるように指示を出した後、除去途中のつる草の中にスズメバチの巣を発見した。</u> ●発生後の対応 発注者に連絡し、巣の駆除をお願いしたところ、速やかに対応して頂いた。 ●反省点 社内で蜂による被害は9月に有り、それ以後、現場作業に関しては周囲の状況を注意するようにしていた所スズメバチの飛来に気づき事なきを得た。 ●再発防止策 ①現場は、常に危険生物との遭遇があることを念頭に置き細心の注意を払う。 ②社内においては、当該事象について全社的に注意喚起を行い、共通の認識を持って現地作業にあたる。
宮城県	2014/8/28	蜂など	<u>伐採作業中、調査箇所内に大量のスズメバチが存し、巣があることが想定できた。伐採機により刈り払いを行っていたところスズメバチを確認した。</u> ●発生後の対応 ①スズメバチ駆除の専門業者に依頼したが、現地の状況が笹竹等の密集地だったため専門業者でも対応出来ない状態であった。 ②土地所有者の了解を得て、「スズメバチの巣有り、立入禁止」の立て看板を設置し、危険であることを周知した。
秋田県	2014/5/28	転倒・転落	<u>業務を行う場所の位置が平坦な地形であったため、通常的安全服装による作業を行っていたが、若干一部に崖地があり滑落等の危険要因の多い作業となった。</u> ●反省点 測量、調査等の作業は、短時間に広範囲の移動を伴う作業のため、固定した安全施設の設置が出来ず、軽微で安全効果の高い対策を講じる必要がある。安全で動きやすい服装をするのは当然ながら、安全ベルト、ヘルメットの常時着用、リュック等を活用し、極力手にもものを持たない身繕い。ロープの準備、活用する等対策すべきであった。 ●再発防止策 会社内、作業車への注意喚起の掲示。作業時毎日の注意喚起。

所在	発生日	事故種別	発生概要
福島県	2014/1	転倒・転落	現地調査の際、2 m程の高さの法面であったため安易に法面を下ってしまった所、落葉で滑ってしまい沢に滑落した。幸い落ち葉がクッションになり怪我をせずにはんだ。 ●発生後の対応 直接法面を下るのではなく、迂回しても緩い斜面を選び足元に注意して移動することにした。 ●反省点 危険だと思うところは十分に注意をして、なるべく避けて通る。 ●再発防止策 作業前に現場の状況を把握し、やむを得ず急斜面を下るときは、補助ロープ、安全ベルトを着用する。又、同行者に周知し注意喚起する。
福島県	2013/10	転倒・転落	落石対策工設計における現地踏査の為、道路法面や法面上部の現地状況の確認作業で、既設の道路法面（モルタル吹付け）を端部から昇る際に、補助ロープ等の安全策を取らなかった為、法面から転落しそうになった。 既設道路法面の背面側も自然法となっており、馬の背状の細く急勾配な尾根筋を昇っていた所、足元の木々につまづき法面から落ちそうになったが枝につかまり難をのがれた。 ●発生後の対応 不安定な箇所は回避して足元を十分注意し進む様にした。また、同行者とお互いに危険箇所を伝えあいながら行動した。 ●再発防止策 足元が不安定かつ高所では補助ロープ、安全ベルトやヘルメットを使用して安全を確認すること。
宮城県	2014/4/24	転倒・転落	積雪した林内の斜面を踏査中に下層が融雪し空洞化した場所を踏み転倒（怪我無し）した。 ●発生後の対応 急な斜面は回避し足場を確認しながら踏査した。
宮城県	2014/10/9	転倒・転落	大気質調査の観測機器設置中、機材が施工ヤード内の通路フェンス入り口を通らず、脚立を使いフェンス上部を通した際、掘削箇所の直近により作業員の墜落、機材落下の危険があった。 ●発生後の対応 安全帯の使用を指示し、脚立を押さえる人員、監視の人員を配置して対応した。
宮城県	2014/9/4	転倒・転落	ボーリングコア出し運搬作業中、雨で足元が濡れていたため、足を滑らせ転倒しそうになった。 ●発生後の対応 足元に注意して作業を続けたが、天候によりスパイク月長靴の使用を検討する。

所在	発生日	事故種別	発生概要
青森県	2014/7/10	転倒・転落	縦断測量及び横断測量を実施中、小雨の中での急斜面の横断測量で、ロープを張りながら法面を下りて行ったところ、岩コケに足を滑らせ斜面を滑り落ちそうになった。 ●発生後の対応 雨天以外でも急斜面ではスパイク付き長靴を履き、滑らないように対応した。 ●反省点 急斜面でロープを張っているため、大丈夫と思いがちで作業を行ったが、小雨で現場の地面状況を把握出来ていなかった。 ●再発防止策 法面等の急斜面での作業は足下の確認を怠らず、また、雨天の場合は極力避ける。
岩手県	2014/8/19	転倒・転落	災害測量写真撮影中、路肩で撮影準備状況を確認中、体勢を崩し転倒しそうになった。このままでは崖を転げ落ちると思いとっさに平地（着地点）を模索し、飛び移った場所が岩の上でそのまま岩の上を滑り落ちた。 岩は2段からなっており、1段目から2段目に飛び移りスピードが加速したため、手を付きブレーキ代わりにした。 2段目の岩から最後の着地点に飛び移った時に手を付き、腕時計のバンドピンを損傷した。外傷は、ほとんどなく軽いかすり傷程度であった。 ●発生後の対応 ①声をかけ合い状況を確認した。 ②体にケガがなく問題なかったので、作業を続けた。 ●反省点 ①自己判断の甘さにより、大きな危険を起こすところであった。 ②幸い大きなケガがなくて良かったが、一歩間違えると命の危険性を脅かすところであった。 ③決して自信過剰になって居た訳ではないが、ちょっとした気の緩みが大きな事故へと結び付く。 ④無理はせず危険を感じる度合いを高め、各々声をかけ合う事が必要と思われる。
岩手県	2014/9/3	転倒・転落	流量観測作業で観測水位が高かったため、船で対岸へロープを張る作業を1名で行っていたが船が軽量小型船であったためバランスを崩し転覆した。 ●発生後の対応 転覆した箇所が川岸で浅かったこととロープを離す事が出来たのでその場で立ち上がる事が出来た。作業員は自力で岸に上陸した。 ●反省点 船観測による作業にも関わらず作業人員を削った事と不安定な作業を軽視してしまった。 ●再発防止策 船を使用する時は、作業員の人数を増やし、大きい方の船を使用する。 乗船人員も1人1作業の作業分担を行い、船長が安全状況を十分に確認する。

所在	発生日	事故種別	発生概要
岩手県	2014/9/25	転倒・転落	用地幅杭設置の杭打ち作業において、急斜面を横に移動していたが、急勾配であった事もあり、最寄りの木を頼りに移動していた。手をかけた木が枯れ木だったため倒木により斜面を滑り落ちた。 ●発生後の対応 滑落した作業員は、擦り傷程度だったがその後の作業は休養させた。 ●反省点 ①周りの状況をよく注視していなかった。 ②人員不足だった。 ●再発防止策 ①急斜面では人員を増員する。 ②上からロープを降ろし安全帯を使用して移動する。
秋田県	2014/1/20	転倒・転落	境界杭の観測作業中、田地でミラーポールを持って移動中に、雪で埋まった側溝に転落したが、軟着したのだけではなかった。 ●発生後の対応 危険箇所を、他の作業者に周知した。 ●反省点 積雪箇所は、危険箇所が見えないことがあることを失念した。 ●再発防止策 作業前に危険箇所を把握して作業者全員で周知することとする。
福島県	2014/8/11	転倒・転落	基準点測量観測作業中、作業箇所は急傾斜地(傾斜 50 度以上)で、前日の降雨により滑りやすい地盤(岩盤)となっていた。 ●発生後の対応 移動ルートに安全ロープを配備し、斜面専用靴を装備した。 ●反省点 急傾斜地作業に対する安全対策及び装備が不十分であった。 ●再発防止策 ①現地踏査により地形状況と作業条件等を確認し、安全対策を万全にする。 ②急傾斜地の作業は法面作業員を配置する。
福島県	2014/11/11	転倒・転落	盛土法面の形状を把握するために法面にて作業中で、晴れていたが地盤がぬかるんでおり、滑落しそうになった。 ●発生後の対応 足を滑らせただけで滑落しなかったため、その後は、足元に気を付けながら作業を継続した。 ●反省点 足元の確認不足、もし足を滑らせ滑落した時に被害にあわない安全対策が不足していた。また、単独にて現地作業を実施していた。 ●再発防止策 ①十分な足元の確認を実施し、法面等の傾斜している箇所に入る際には、滑落した場合でも大きな被害にあわないように安全帯等の装備を行う。 ②単独作業を行わず、複数人での作業を心がける。

所在	発生日	事故種別	発生概要
秋田県	2014/9/1	転倒・転落	深淺測量の作業前機材設置中で、船体での作業員移動時に作業員が船体片側に集中したため、船体が傾き海上に転落しそうになった。 ●発生後の対応 船上移動前に声かけを行い、お互いの確認を得てから移動した。 ●反省点 狭い船上での作業だったので、何か作業を行う時には常に何らかの声かけを行うべきだった。 ●再発防止策 作業前の状況・周囲の確認を行った後に声かけをし、各員が認識してから作業をする。
福島県	2014/6	転倒・転落・溺れ	低水流量観測中、川の中を移動している際石につまずき体勢を崩し胴長靴に水が入ってしまい、流されそうになったが安全ロープにつかまり浅瀬まで移動した。 ●発生後の対応 ①慎重に作業を行い、腰より深いところには近づかないようにした。 ②足の置場を慎重に確認しながら、一步一步ずつゆっくり移動した。 ●反省点 川に入る場合はどんな危険があるか分からないので、命綱、安全ロープ等を用意し細心の注意を怠らない。 ●再発防止策 入水前に入水箇所の状況を把握し、安全装備の着用を図り同行者に周知し喚起する。
岩手県	2014/6/9	転倒・転落・溺れ	河川の横断測量を行っていて、頭首工上部から約3.3m下に滑り落ち、水深約1.8mの頭首工下部で溺れそうになった。 担当していた水深部の測量を終え、浅水部から陸地を測る技師にバトンタッチし、次の測点の断面を確認する為、単独で頭首工上部に上ったところ、苔で滑りやすくなっており、頭首工下部に滑り落ちた。上流で測量していた4人は滑り落ちたところを目撃できなかった。 ●発生後の対応 ①救命胴衣を装着していた為、水流に揉まれたが呼吸できる状態に数回浮いた為大事に至らなかった。 ②履物を替え作業を行った。 ③メンバーに注意を喚起した。 ●反省点 ①ウェットスーツに救命胴衣、更に腰ロープを装着していた為、溺れないという気の緩みがあった。 ②慣れた作業でも隠れた危険を意識して行動する。 ③河川、海の測量の際は、単独で行動しない。 ●再発防止策 ①足元に注意し無理をしない。②仕事の慣れ意識を改める。 ③今回の出来事を作業員に伝達し共有化を図る。 ④安全第一を再認識する。

所在	発生日	事故種別	発生概要
宮城県	2014/8/19	溺れ	<u>地引網による魚類調査の際、波に飲まれそうになった。</u> ●発生後の対応 翌日以降の作業について比較的波の静かな安全な日程をさらに吟味して作業した。
福島県	2014/9	交通事故	現場への移動中、細い道を対向車が勢いよく走行して来たためすれ違い事故になりかけた。カーブの多い細い道を現場に向かって走行中、対向車（大型トラック）が勢いよく走行して来たため、咄嗟に路肩いっぱいに停止して事なきを得た。 ●発生後の対応 対向車に注意をし、スピードが出過ぎないように慎重に走行した。 ●反省点 カーブの先のことも考えて、慎重かつ注意して運転することを怠らない。 ●再発防止策 現場への移動の際、交通安全については十分注意するよう喚起する。
宮城県	2014/9/3	交通事故	<u>橋梁点検に伴う片側交通規制で、片側交互通行規制帯を設置中、高齢ドライバーが一方通行を逆走しそうになった。</u> ●発生後の対応 緊急停車させ車両をUターン誘導した。その後は、規制開始前においても通行車両を監視する人員を配置した。
宮城県	2014/5/29	交通事故	<u>運転中、高速道路の落下物に衝突しかけた。</u> ●発生後の対応 高速道路では十分な車両間隔を取るようにした（大型車とは100mを目処に）
宮城県	2013/10/28	交通事故	<u>会社から帰宅を急いだため、横断歩道を歩行者が通行しているのに気づくのが遅れ、危うく人身事故を起こしそうになった。また、当日は雨も降っていて夜間の運転でもあった。交差点を右折した際に横断歩道を歩行者が通行していたが、歩行者に気づくのが遅れ、ブレーキをかけ事故には至らなかった。</u> ●発生後の対応 ①交差点を右折する際は、車がいつでも停止できる速度で走行した。 ②車の運転中は、前方を確認すると共に、交差点内は左右の安全確認をしながら走行した。 ●反省点 帰宅を急いだため視野が狭くなり、前方の信号機しか見えない状態であったことから、時間に余裕が必要と感じた。 ●再発防止策 ①雨の日は、車間距離はいつもの2倍を取り、スピードダウンに心がける。 ②社内で今回の出来事を伝達する。

所在	発生日	事故種別	発生概要
宮城県	2014/5/9	交通事故	<u>昼食後車で移動し、現場作業をしようと車を路肩に止めドアを開けようとした際、後方確認を怠ったため、後方から来た車に危うくぶつけそうになった。</u> ●発生後の対応 ①ドアを開ける際は、ルームミラーでの確認並びに目視での確認を行った。 ②車を停車する際は、後方確認を確実に行うようにした。 ●反省点 車のドアの開閉時には、ルームミラー並びに目視による確認を確実に実施し、同乗者がいた場合には、開閉時に後方確認をするよう声をかけるようにした。 ●再発防止策 ①車の停車並びに発進時には、後方確認を実施する。 ②社内で今回の出来事を伝達する。
福島県	2014/8	伐採	<u>境界杭打設時に、伐採を行っているさい伐採した篠竹の切口が長靴に刺さった。</u> ●発生後の対応 ①切口をなるべく地面に近い位置で伐採した。 ②長靴ではなく安全靴に履き替えた。 ③作業者に注意を喚起した。 ●反省点 ①切口をなるべく地面に近い位置まで伐採しなかった。 ②安全靴を使用しないで作業を行った。 ●再発防止策 ①切口をなるべく地面に近い位置で伐採する、かつ切り口を鋭角にしない。 ②安全靴を履き作業を行うこと。
山形県	2014/5/26	伐採	<u>現場車両3台を作業箇所近くの農道脇スペースに移動した。車両周辺の藪が邪魔であったため、草刈り機で伐採を行った際、車両のタイヤに接触しパンクを発生させた。</u> ●発生後の対応 スペアタイヤに交換した。 ●反省点 操作の自信過剰、注意不足である。 ●再発防止策 作業場所と車両停車箇所に十分な離隔を確保する。
宮城県	2014/10/30	過労	<u>運転中、眠気に襲われ一瞬意識がなくなった。</u> ●発生後の対応 単独運転時は無理をせず休憩を挟む。 ●再発防止策 ①極力複数により疲れたら声掛けし交代する。 ②やむを得ず単独運転の場合は、無理せず休憩を挟む。

所在	発生日	事故種別	発生概要
宮城県	2013/9/27	過労	<u>一般道路から高速道路に入り 10 分程車を運転していたら、一瞬記憶がなくなり、中央分離帯の方へ近づきそうになったとき、記憶が戻った。</u> ●発生後の対応 ①近くのパーキングに止めて、10 分程仮眠を取った。 ②2 時間に 1 回程度の休憩を取った。③運転中は、ガムを噛むようにした。 ●反省点 睡眠不足は、車の運転に支障を来たすことから、時間に余裕を持った行動をとり、長時間の運転時にはこまめな休憩を取るようにする。 ●再発防止策 ①こまめな休憩を取る。 ②休息中は、糖分を多く含んだ飲み物を飲む。 ③社内で今回の出来事を伝達する。
宮城県	2014/8/8	挟まれ	<u>井戸調査の際φ1mの井戸蓋を 2 人で開ける際に指が挟まれそうになった。</u> ●発生後の対応：作業手順は、声を合わせて確認して作業を続けた。
宮城県	2014/10/7	杭打ち	<u>カケヤによる木杭の打ち込み作業時に空振りして自分の足に当たりそうになった。</u> ●発生後の対応 周囲を確認後、足場を固定すると共に、打撃時は杭頭に集中し慎重に実施した。
山形県	2014/8/25	気象変化	<u>河川災害測量中、河川内において横断測量を実施していたが、作業途中に急激に水位が増水してきたので、見張り員の指示で急いで対岸に避難した。原因は、上流の山間部に於ける極地的な降雨と思われる。</u> ●発生後の対応 上流に橋があったので、対岸から橋を通って戻り、その後、河川内測量を中止して地上の横断測量を実施した。 ●反省点 ①上流の気象状況を把握し、見張り員を専属に配置する必要があった。 ②作業内容に適した安全装備をしていたので、事故は避けられた。（救命具、ウェットスーツ、ヘルメット等） ●再発防止策 ①作業前の気象確認は作業地域だけでなく、その周囲や近隣の気象情報の把握し、特に河川作業に於いては、上流の気象や施設状況を良く把握する。 ②作業内容に適した安全装備を徹底する。（救命具、ウェットスーツ、ヘルメット等） ③河川測量においては、必ず見張り員を配置する。
山形県	2014/6/4	気象変化	<u>流量観測所の伐採作業において、観測所到着時車両下車の際にドアが強風にあおられ、運転席ドアが損傷し閉まらなくなった</u> ●発生後の対応 ドアが閉まるように細工し修理工場へ搬入、修理依頼を行った。 ●反省点 注意不足であり予測することが大事である。 ●再発防止策 強風時には風上に車両前面を向ける。

※ 日々の報告書として次頁のヒヤリハット事故事例報告書を活用いただきますようお願いいたします。

(参考資料)

整理番号:

会社名:

ヒヤリハット事故事例報告書

業務名・作業名	
---------	--

報告者記入欄	いつ	
	だれが	
	どこで	
	何をしていたときに	
	どんなことから	
	どんな危険に遭遇したかまたは発見したか	
	被害(丸で囲む)	1. なし 2. 人的疾病があった 3. 動的損傷や破損があった 4. その他

作業責任者記入欄	対策の検討	今回のヒヤリハットに職場検討で決めた対策	検討会出席者	
		対策の実施	完了 : 平成 年 月 日()	完了 : 平成 年 月 日()
		今後の予防のため職場検討で決めた対策		
		対策の実施	完了 : 平成 年 月 日()	完了 : 平成 年 月 日()
	原因の分析	作業環境の不安全状態	1. 防護具・服装の不備 2. 安全対策の不足 3. 作業環境の不整備 4. 不適当な器具類の使用 5. 器具類の欠損 6. その他	
		作業行動の不安全状態	1. 規律無視の行動 2. 点検確認の不足 3. 作業環境の不整備 4. 第三者の不安全行為 5. その他	
		管理の欠陥	1. 指導指示の不足 2. 現場意見の無視 3. その他	
		今回の予想された事故の形態	1. 墜落・落石 2. 転倒 3. 激突 4. 飛来・落下 5. 崩壊・倒壊 6. 激突され 7. はさまれ・巻き込まれ 8. 切れ・こすれ 9. 高温低温の者との接触 10. 感電・火災 11. 有害物との接触 12. 交通事故 13. 動作の反動・無理な動作 14. 破裂 15. 熱中症 16. 体調不良 17. その他	

			報告者